

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	適性試験		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	担任、他	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	100時間
教科書	-				
参考書・問題集	適性試験練習問題（100回） プリント				
授業概要	国家公務員試験採用時に課される適性試験模擬試験問題の演習の実施、および、新聞の社説を制限時間内に任意の文字数に要約する。				
学習目標	効率よく適性問題を解答し高得点の取得を目指す。また、短時間で難易度の高い長文の内容を理解し要点を適切な言葉でまとめ、作文する力を身につける。				
授業の進め方	前半20分は、適性試験問題の実施。（課題把握：5分、解答：15分） 後半20分は、社説要約の実施および解説。途中、合間の時間を利用して、100マス計算のプリントを実施する。（100マス計算のみ前半に行う）				
授業内容	<p>適性試験 問題冊子を配布した後、20分（問題把握 5分、解答 15分）計測をして問題演習を実施。</p> <p>社説要約 社説問題を配布し、各自問題文を読み解き、要約作文を記入させる。 答案は毎回回収して採点をして返却する。</p> <p>100マス計算 プリントを配布し、一定時間内に計算結果を記入する。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階） A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者 C：理解および日常の授業態度がやや劣る者 D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者       (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	政治		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	36時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 社会科学テキスト				
参考書・問題集	現代社会（東京書籍）				
授業概要	民主政治の基本原則、日本国憲法（主に基本的人権について）、政治の仕組み、地方自治、国際社会などの理解を促し、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	政治についての基礎知識をつけ、語句や仕組みを正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半は、テキストに沿って、政治の原理や重要用語の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習を実施し、模範解答の解説を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民主政治の基本原則</li> <li>2. 主要国の政治制度</li> <li>3. 日本国憲法</li> <li>4. 基本的人権（総論）</li> <li>5. 基本的人権（各論）</li> <li>6. 国会</li> <li>7. 内閣</li> <li>8. 裁判所</li> <li>9. 地方自治</li> <li>10. 政党と選挙制度</li> <li>11. 国際政治</li> <li>12. 国際連合</li> </ol> <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	経済		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	37時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 社会科学テキスト				
参考書・問題集	現代社会（東京書籍）				
授業概要	市場の原理、金融や財政の仕組みなど経済全般における理解を促し、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	経済についての基礎知識をつけ、語句や仕組みを正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半は、テキストに沿って、経済の原理や重要用語の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習を実施し、模範解答の解説を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 需要と供給、経済学説</li> <li>2. 市場</li> <li>3. 企業</li> <li>4. 国民所得と景気変動</li> <li>5. 金融の仕組み</li> <li>6. 財政の仕組み</li> <li>7. 日本経済の発展</li> <li>8. 国政経済</li> <li>9. 地域的経済統合</li> </ol> <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	倫社		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	37時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 社会科学テキスト				
参考書・問題集	現代社会（東京書籍）				
授業概要	西洋と東洋の思想の理解、労働問題や社会保障など現代社会における課題についての理解を促し、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	倫理や現代社会についての基礎知識をつけ、語句や仕組みを正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半は、テキストに沿って、様々な思想や重要用語の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習を実施し、模範解答の解説を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <p>倫理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西洋の思想（古代、近代）</li> <li>2. 西洋の思想（近代、現代）</li> <li>3. 東洋の思想</li> </ol> <p>現代社会</p> <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	日本史		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	42時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 人文科学テキスト				
参考書・問題集	プリント				
授業概要	古代、中世、近世、近代および現代の日本の歴史についての理解を促し、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	日本の歴史についての基礎知識をつけ、語句や仕組みを正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半は、テキストに沿って、プリントを使用しながら時代ごとの特徴や重要用語の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習および復習を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 律令国家</li> <li>2. 平安時代</li> <li>3. 武家社会の変遷</li> <li>4. 戦国時代と織豊政治</li> <li>5. 幕藩体制</li> <li>6. 江戸末期～明治維新</li> <li>7. 明治時代</li> <li>8. 大正時代</li> <li>9. 昭和時代</li> <li>10. 第二次世界大戦</li> <li>11. 第二次世界大戦後の諸改革</li> </ol> <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	世界史		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	43時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 人文科学テキスト				
参考書・問題集	プリント				
授業概要	古代文明、ローマ時代、中世、近世、近代の西洋の歴史および中国、イスラム、インドの歴史についての理解を促し、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	世界の歴史（西洋史、中国史）についての基礎知識をつけ、語句や仕組みを正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半は、テキストに沿って、プリントを使用しながら時代ごとの特徴や重要用語の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習および復習を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古代文明、ローマ帝国</li> <li>2. ゲルマン国家、キリスト教、ヨーロッパ世界の形成</li> <li>3. 大航海時代、宗教改革</li> <li>4. 絶対王政、市民革命</li> <li>5. 列強の帝国主義政策</li> <li>6. 第一次世界大戦前後</li> <li>7. 第一次世界大戦前後（アジア）</li> <li>8. ファシズム、第二次世界大戦</li> <li>9. 第二次世界大戦後の世界、冷戦</li> <li>10. 中国の歴史</li> <li>11. イスラム世界の歴史</li> <li>12. インドの歴史</li> </ol> <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	地理		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	43時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 人文科学テキスト				
参考書・問題集	世界の諸地域NOW、統計要覧 プリント				
授業概要	地形、気候、農工業、各国状況、環境問題など地理についての理解を促し、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	地理についての基礎知識をつけ、語句や仕組みを正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半は、テキストに沿って、プリントを使用しながら項目ごとの特徴や重要用語の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習および復習を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然環境</li> <li>2. 気候 1</li> <li>3. 気候 2、土壌</li> <li>4. 民族、人口、交通</li> <li>5. 世界の農林水産業</li> <li>6. 世界の鉱工業</li> <li>7. アジア、アフリカ</li> <li>8. ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア</li> <li>9. 日本</li> <li>10. 世界の都市、公害、環境問題、地図</li> <li>11. 時差</li> </ol> <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	自然科学		実務経験のある教員等による授業				
			実務経験				
担当教員	塚田、安藤	学 年	1年	履修区分	必履修		
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	67時間		
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 自然科学テキスト						
参考書・問題集	初級スーパー過去問 自然科学						
授業概要	物理、化学、生物、地学などの自然科学分野についての理解を促し、公務員試験問題の演習を実施する。						
学習目標	自然科学についての基礎知識をつけ、語句を正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。						
授業の進め方	前半は、テキストに沿って、プリントを使用しながら項目ごとの特徴や重要用語の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習および復習を行う。						
授業内容	<p><b>4月～6月 基礎学習期</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>物理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物体の運動と力</li> <li>2. エネルギー</li> <li>3. 波動</li> <li>4. 電流と磁界</li> <li>5. 原子核ほか</li> </ol> <p>化学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 元素の周期表と化学結合</li> <li>2. 化学反応と物質</li> <li>3. 酸と塩基</li> <li>4. 酸化と還元</li> <li>5. 無機物質と有機物質</li> <li>6. 人間生活と化学</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>生物</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞と組織</li> <li>2. 光合成と呼吸</li> <li>3. 刺激と反応</li> <li>4. 恒常性</li> <li>5. 生殖と遺伝</li> <li>6. 生物の集団と物質循環</li> </ol> <p>地学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大気と地球</li> <li>2. 地球内部の構造</li> <li>3. 岩石と火山</li> <li>4. 地球の歴史</li> <li>5. 太陽系と恒星</li> </ol> </td> </tr> </table> <p><b>7月～9月 実践学習期</b></p> <p>上記の内容を網羅した過去問演習および、解説。</p>					<p>物理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物体の運動と力</li> <li>2. エネルギー</li> <li>3. 波動</li> <li>4. 電流と磁界</li> <li>5. 原子核ほか</li> </ol> <p>化学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 元素の周期表と化学結合</li> <li>2. 化学反応と物質</li> <li>3. 酸と塩基</li> <li>4. 酸化と還元</li> <li>5. 無機物質と有機物質</li> <li>6. 人間生活と化学</li> </ol>	<p>生物</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞と組織</li> <li>2. 光合成と呼吸</li> <li>3. 刺激と反応</li> <li>4. 恒常性</li> <li>5. 生殖と遺伝</li> <li>6. 生物の集団と物質循環</li> </ol> <p>地学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大気と地球</li> <li>2. 地球内部の構造</li> <li>3. 岩石と火山</li> <li>4. 地球の歴史</li> <li>5. 太陽系と恒星</li> </ol>
<p>物理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物体の運動と力</li> <li>2. エネルギー</li> <li>3. 波動</li> <li>4. 電流と磁界</li> <li>5. 原子核ほか</li> </ol> <p>化学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 元素の周期表と化学結合</li> <li>2. 化学反応と物質</li> <li>3. 酸と塩基</li> <li>4. 酸化と還元</li> <li>5. 無機物質と有機物質</li> <li>6. 人間生活と化学</li> </ol>	<p>生物</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞と組織</li> <li>2. 光合成と呼吸</li> <li>3. 刺激と反応</li> <li>4. 恒常性</li> <li>5. 生殖と遺伝</li> <li>6. 生物の集団と物質循環</li> </ol> <p>地学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大気と地球</li> <li>2. 地球内部の構造</li> <li>3. 岩石と火山</li> <li>4. 地球の歴史</li> <li>5. 太陽系と恒星</li> </ol>						
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p style="padding-left: 2em;">(2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>						
備考							



## 授業要目（シラバス）

授業科目名	国語		実務経験のある教員等による授業		○
			実務経験	国語教員、県職員、人事担当	
担当教員	中永	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	23時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 一般知能テキスト				
参考書・問題集	プリント				
授業概要	言葉・歴史・文化・社会などについてのさまざまな文章を取り上げて、読解することで、読解力を高めながら、公務員試験問題に対応できる国語力を育成する。				
学習目標	様々な文章の読解力を付け、また国語の力を付けることで、公務員採用試験で得点できることを目指す。				
授業の進め方	テキスト、プリントなどの教材を用いて、講義形式を中心にして、授業を進める。				
授業内容	<p><b>【前期】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ テキストを用いて、過去に公務員採用試験で出題された様々な内容の文章を読解して、読解力を高める学習。</li> <li>■ プリント教材を用いて、文章読解力、語彙力を高める学習。</li> </ul> <p><b>【後期】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ プリント教材を用いて、文章読解力、語彙力を高める学習。</li> </ul>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	英語		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	15時間
教科書	プリント				
参考書・問題集					
授業概要	頻出英文法、頻出イディオムの理解を促し、英文読解など公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	英文法、イディオムについての基礎知識をつけ、用法を正しく理解し、長文読解など教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	プリントを使用しながら頻出文法問題の注意点や解説をした後、長文読解の演習を実施する。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <p>文法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. It is ~ to do. 構文</li> <li>2. 比較</li> <li>3. 不定詞</li> <li>4. 動名詞</li> <li>5. 関係詞</li> <li>6. その他</li> </ol> <p>長文読解（1回：1～2問）</p> <p>7月～8月 実践学習期</p> <p>前半での学習を網羅した演習問題の実施、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	数的推理		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	63時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 一般知能テキスト				
参考書・問題集	プリント				
授業概要	整数、割合、速さ、確率、図形の計量などに関する問題について、その考え方と解法を習得させ、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	整数、割合、速さ、確率、図形の計量などに関する問題について、その考え方と解法を習得し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半はテキストに沿って、例題の解説を通して基本的な考え方や解法などの講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習および復習を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 整数</li> <li>2. 方程式・不等式</li> <li>3. 速さ（旅人算、流水算、通過算など）</li> <li>4. 割合（濃度、損益算、仕事算など）</li> <li>5. 図形（平面図形、立体図形）</li> <li>6. 場合の数・確率</li> </ol> <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	判断推理		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	塚田	学年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	64時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 一般知能テキスト				
参考書・問題集	プリント				
授業概要	集合、論理、関係性、発言推理、図形などに関する問題について、その考え方と解法を習得させ、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	集合、論理、関係性、発言推理、図形などに関する問題について、その考え方と解法を習得し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半はテキストに沿って、例題の解説を通して基本的な考え方や解法などの講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習および復習を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集合・論理</li> <li>2. 関係性（対応、順序、位置など）</li> <li>3. 発言推理</li> <li>4. 暗号・規則性</li> <li>5. 平面図形・位相</li> <li>6. 立体図形</li> </ol> <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	資料解釈		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	小原	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	21時間
教科書	公務員合格セミナー 初級本科 一般知能テキスト				
参考書・問題集	プリント				
授業概要	実数、指数、構成比、増減率など様々なタイプの表やグラフの読解力を促し、公務員試験問題の演習を実施する。				
学習目標	実数、指数、構成比、増減率などについての基礎知識をつけ、グラフや表の活用法を正しく理解し、教養試験で確実に得点できるようにする。				
授業の進め方	前半は、プリントを使用しながら項目ごとの特徴や考え方の講義を実施する。後半は、実際の試験問題（過去問）を用いた問題演習および復習を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実数の表、グラフ</li> <li>2. 指数の表、グラフ</li> <li>3. 増減率の表、グラフ</li> <li>4. 構成比の表、グラフ</li> <li>5. その他様々なグラフ</li> </ol> <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容を網羅した過去問の演習、および、解説。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	作文		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西、小原	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	21時間
教科書	自分を伝えるための作文ワーク&添削				
参考書・問題集					
授業概要	これまでの取り組み、自己PR、志望動機など、公務員試験にて問われる要素について自分自身を見直し、文章で表現する実践練習を行う。				
学習目標	自己分析を行うことで、自分自身の持ち味を深く追求し、理解し、言葉や文章で表現できる力を身につける。				
授業の進め方	前半は、項目ごとに過去の自分の取り組みについて見つめなおし、文章で表現する練習を行う。後半は、実際の公務員試験で課せられるテーマに即して制限時間内に作文を仕上げる練習を行う。				
授業内容	<p>4月～6月 基礎学習期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 私の好きなもの</li> <li>2. 学生時代の思い出</li> <li>3. 学生時代に熱心に取り組んだこと</li> <li>4. 失敗から学んだこと</li> <li>5. 志望動機</li> <li>6. 自己PR</li> </ol> <p>7月～9月 実践学習期</p> <p>上記の内容をまとめて、1分間スピーチを実施。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	模擬試験		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西、小原、塚田	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	98時間
教科書					
参考書・問題集	公務員模擬試験（6回） 学内模擬試験（14回） 公開模擬試験（2回） 国家過去問 麻生公開模試（4回）				
授業概要	公務員教養模擬試験の実施。				
学習目標	実際の試験を、実際と同じ時間を測定し、実際の試験と同じ環境の中で効率よく時間を配分し、確実に解答できる力を身につける。				
授業の進め方	実際の試験に即した環境で、実際の試験と同じ時間を測定し、模擬問題の解答を行う。				
授業内容	<p>■公務員模擬試験 全6回</p> <p>教養試験 45問（100分） 適性試験 120問（15分）</p> <p>■学内模擬試験 全14回（3種類）</p> <p>教養試験 45問（100分） 適性試験 120問（15分）</p> <p>教養試験 40問（90分） 適性試験 120問（15分）</p> <p>教養試験 50問（120分）</p> <p>■麻生公開模試 全4回</p> <p>教養試験 40問（90分） 教養試験 40問（120分） 教養試験 50問（120分） 教養試験 60問（75分）</p> <p>■国家公務員過去問</p> <p>教養試験 40問（90分）</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>(2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	講演会		実務経験のある教員等による授業		○
			実務経験	官公庁職員	
担当教員	大西、小原	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	10時間
教科書	-				
参考書・問題集	-				
授業概要	提携している(株)実務教育出版の派遣講師による公務員試験受験ガイダンス、および、各官庁の現役職員による業務説明会を実施する。				
学習目標	公務員採用試験を受験するにあたり、社会における公務員の役割と公務員に求められる素養を理解する。その上で、各官庁が担う役割を理解し、自身の受験目標を明確にすること。				
授業の進め方	(株)実務教育出版および各官庁の講師による講演会の実施。場合によりスライドやDVDによる業務説明や質疑応答を行う。各講演後に報告書の記入を行う。				
授業内容	<p>毎週金曜日に実施。</p> <p>(株)実務教育出版</p> <p>4月 公務員試験の概要、教養試験対策について</p> <p>6月 実践期における教養対策、面接・作文試験の対策について</p> <p>国家公務員（地方法務局、地方検察庁）</p> <p>4月～ 各官庁の役割、業務説明について</p> <p>税務職員</p> <p>5月～ 業務内容、業務説明について</p> <p>海上保安庁</p> <p>6月～ 業務内容、業務説明について</p> <p>日南町役場</p> <p>6月～ 業務内容、業務説明について</p> <p>自衛隊</p> <p>7月以降 業務内容、業務説明について</p> <p>その他（各官庁に勤務する卒業生）</p> <p>随時（講演可能な日程を調整の上実施）</p> <p>5月～ 学生時代の過ごし方、勉強方法、現在の業務内容について</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>(2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					



## 授業要目（シラバス）

授業科目名	総合学習		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西、小原	学年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	通年	時間数	28時間
教科書					
参考書・問題集					
授業概要	変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う				
学習目標	学生が自主的に課題を見つけ出し、学んだり考えたり判断したりしながら、課題解決のための資質や能力を育成する				
授業の進め方	職業研究やテーマごとのディスカッションを、各クラス単位や学校全体で実施する。市立図書館訪問や清掃活動などの校外活動を実施する。				
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■全校集会 月に1回、全校学生が集合し、基本理念の唱和、代表学生の所信表明、校長からの訓辞などを行う。</li> <li>■集団討論 遠足や球技大会の実施方法などについてグループに分かれて実施する。 (クラス単位や学校全体など、定期的にメンバーを変えて実施する)</li> <li>■図書館訪問 米子市立図書館へ訪問し、利用方法を学習した上でテーマに沿った文献の探求やそれについてのレポートを実施する。</li> <li>■清掃活動 定期的に校外で清掃活動を実施する。</li> <li>■その他、クラス活動 クラスごとに必要に応じて、検定試験や研究活動などを実施する。</li> </ul>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	LHR		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西、小原	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	通年	時間数	50時間
教科書					
参考書・問題集					
授業概要	学校行事の実施。				
学習目標	校内のレクリエーションを通じてイベントを組み立て運営する力を身につけたり、参加することでどのような効果があるのかを考える力を身につける。				
授業の進め方	学校行事の企画、運営、および参加。				
授業内容	<p>■入学・進級オリエンテーション 米子コンベンションセンターにて、実施。 1日目 学校内規則の確認、模擬試験実施、学習内容および学習計画の確認 2日目 全学生によるレクリエーションの実施</p> <p>■遠足 4月下旬に実施。彫刻ロードの清掃も兼ねる。</p> <p>■球技大会 夏、冬の二回実施。 学生主体で、企画、運営、活動を実施する。</p> <p>■学園祭 12月中旬に実施。 学生主体で、企画、立案、運営、活動を実施する。</p> <p>■プレゼン発表会 年度末に実施。 5名ほどの班に分かれて、各班ごとにテーマを決定し、研究発表を実施する。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階） A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者 C：理解および日常の授業態度がやや劣る者 D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者       (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。 検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	基礎教養		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西、小原	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	前期	時間数	57時間
教科書					
参考書・問題集					
授業概要	公務員二次面接試験に向けたスピーチ、模擬面接練習、および、面接カード（作文）作成を実施する。				
学習目標	これまでの生活を振り返り、自分自身の強みや志望職種に向かう思いの源を明確にしていく。また、これを自分の言葉で表現して発言したり文章化したりできるように促す。				
授業の進め方	テーマを与えて1分間スピーチを行う。各自受験先に提出する面接カードの作成を行う。準備が整ったものから、実際の場面に即した面接練習を行う。				
授業内容	<p>■スピーチ 自己PR、志望動機など、テーマに沿った内容についての1分間スピーチを行う。スピーチの際の所作（立居振舞、発声、速度など）に注目して実施する。聴き手にも話の聴き取り方を学ばせる。</p> <p>■面接カード作成 各自受験先に提出する面接カードの作成を実施する。</p> <p>■面接練習 実際の場面に即した形で面接練習を行う。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階） A：理解および日常の授業態度が優秀な者　B：理解および日常の授業態度が良好な者 C：理解および日常の授業態度がやや劣る者 D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者       (2)科目の授業出席率が80%未満の者　※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	総合演習		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西、小原	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	通年	時間数	75時間
教科書					
参考書・問題集					
授業概要	数名ずつの班に分かれ、1年間で学んだことに準ずるテーマを挙げ、研究発表の準備を進めていく				
学習目標	将来、公務に就く上で必要となる社会を見る力をつける。 収集した素材を整理し、わかりやすく伝える技術を身につける。				
授業の進め方	班ごとにディスカッションを重ねて、各テーマの立案及び情報収集方法を計画立てる。必要に応じてインタビューの要請をしたり、書籍の検索をしたり、アンケートによるデータ収集をしたりする。素材を整理し、プレゼン資料を作成する。				
授業内容	<p>■学習発表会に向けた準備</p> <p>年度末に実施する学習発表会に向けた、テーマ決定を行う。</p> <p>各班ごとに、研究、プレゼン用の資料作成、プレゼンの練習を実施。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	PC実習		実務経験のある教員等による授業		
			実務経験		
担当教員	大西、田中	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	後期	時間数	54時間
教科書					
参考書・問題集					
授業概要	実際に簡単な書類を作りながらWORD、EXCELの基礎的な使用方法の理解を促す。				
学習目標	ビジネス系ソフトの使用法を理解し、簡単なビジネス文書やデータの作成ができるようになる。また、すでにある書類の変更方法を身につける。				
授業の進め方	前半は、タイピングとWORDの演習を実施する。およそ、簡単な文書作成ができるようになってからEXCELの演習を実施する。期末に、どのくらいの理解度があるか、模擬テストを実施し測る。				
授業内容	<p>WORD</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■10分間タイピング 10分間計測し、300～500字を目標にタイピング練習をする。</li> <li>■WORD基本操作 文書設定や文字設定などの操作方法を学ぶ。</li> <li>■文書作成 簡単なビジネス文書の作成をする。</li> </ul> <p>EXCEL</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■EXCEL基本操作 セルの設定、罫線の設定など基本操作を学ぶ。</li> <li>■表計算 表計算のルールを学び、演習する。</li> <li>■数式 SUM、IF、VLOOKUPなどの良く利用する基本的な数式を学び、演習する。</li> </ul>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	簿記		実務経験のある教員等による授業		○
			実務経験	税理士事務所	
担当教員	戸川	学年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	後期	時間数	36時間
教科書	スッキリわかる 日商簿記初級 第2版（TAC出版）				
参考書・問題集					
授業概要	基礎的な簿記の知識理解を促し、日商簿記初級の検定取得を目指す。				
学習目標	簿記の基礎知識を身につけ、日商簿記初級の検定取得を目指す。				
授業の進め方	テキストに沿って簿記の基礎や用語を理解した上で、問題演習を行いながら実践的な訓練を行う。				
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 簿記の基礎</li> <li>■ 商品売買、現金・預金、手形と電子債権（債務）</li> <li>■ 貸付金・借入金、その他の取引</li> <li>■ 固定資産</li> <li>■ 租税公課と消費税・資本金</li> <li>■ 帳簿記入、試算表、伝票と仕訳日計表</li> <li style="padding-left: 20px;">※ プリント、模擬試験プログラムを使用した問題演習</li> <li>■ 日商簿記初級の受験（1月下旬）</li> </ul>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p style="padding-left: 20px;">(2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					

## 授業要目（シラバス）

授業科目名	ビジネス基礎		実務経験のある教員等による授業		○
			実務経験	マナー教室講師	
担当教員	池上	学 年	1年	履修区分	必履修
授業の形態	一斉授業	開講学期	後期	時間数	15時間
教科書					
参考書・問題集					
授業概要	社会生活の中で不可欠なマナーを理解する。また、実演を通じて実際の場面で活用できる力を身につける。				
学習目標	社会生活の中では多くの人と関わることを理解し、様々な場面における他者への配慮を考え行動できる人材を目指す。				
授業の進め方	他者への配慮が必要なビジネスシーンを紹介し、どのような配慮をしたうえでどのような行動をするのが望ましいか考える時間を設ける。また、実際に実践練習を行う。				
授業内容	<p>様々なビジネスシーンにおける配慮を理解し、実践練習を行う。</p> <p>敬語の使い方          尊敬・謙譲・丁寧といった基本的な敬語の種類と使用方法を理解する。</p> <p>電話対応          受信した電話の対応方法、取引先への電話のかけ方などを理解する。</p> <p>接待方法          上座、下座など部屋や車、エレベーターなどの座席や使い方などを理解する。</p> <p>その他          基本的な手紙の書き方、メールの文面など、ビジネスシーンにおける様々な場面での配慮の方法を理解する。</p>				
評価方法	<p>①成績評価は原則として前期末および後期末に行う。</p> <p>②成績評価は、検定取得、授業態度、確認テスト、ホームワーク実施状況、期末試験等の資料による。</p> <p>③評価基準（成績評価はA、B、C、Dの4段階）</p> <p>A：理解および日常の授業態度が優秀な者    B：理解および日常の授業態度が良好な者</p> <p>C：理解および日常の授業態度がやや劣る者</p> <p>D：(1)科目に対する理解および日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>          (2)科目の授業出席率が80%未満の者    ※D評価の科目があれば進級・卒業は認めない。</p> <p>検定関連科目は、検定結果を考慮して評価する。</p>				
備考					